

朝日産経日経毎日読売日刊建設工業日刊建設産業建設通信
大阪日々神戸京都京都(滋賀版)奈良福井和歌山()

リサイクルの質向上に指標を

建設副産物対策近畿地方連絡協議会(事務局・近畿地方整備局企画部)は21日、大阪市の建設交流館で建設リサイクルシンポジウムを開いた。香川高等専門学校(高松市)の嘉門雅史校長らによる基調講演やパネルディスカッションなどを通して、建設リサイクルの課題や今後の方向性などを探った。同協議会が今年度に創設した近畿建設リサイクル表彰の表彰状授与式も行った。

冒頭、上総周平近畿地方整備局長は「全産業廃棄物の2割は建設産業から発生している。天然資源が乏しいわが国で、建設副産物を有効利用する3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取り組みを充実させることは、循環型社会を構築するために重要だ。行政を始め、施工者や解体工事業者な



嘉門校長 上総局長

建設副産物対策近畿地方連絡協議会のシンポ 循環型社会構築へ流れつくる

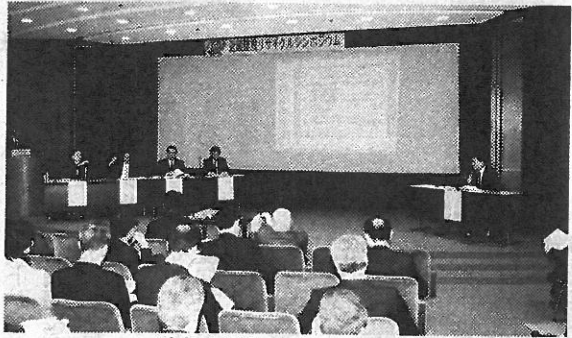
ど、いろいろな分野の人が力をあわせて循環型社会構築の流れをつくっていきたい」と述べた。

基調講演では、嘉門校長が「建設リサイクルと循環型社会」、日本能率協会総合研究所の高野昇取締役R&C事業担当が「建設リサイクルの先端事例と海外情報」をテーマにそれぞれ講演した。

嘉門校長は「低炭素社会と循環型社会、自然共生型社会のバランスを保ちながら持続可能な社会を構築していくことが大切だ」と述べたほか、改正土壌汚染対策法の概要に触れながら、今後の建設リサイクルの課題などを提起した。

高野氏は、諸外国の建設リサイクルの状況を紹介した上で、「建設リサイクル分野で日本は世界のトップランナーだ」と述べ、積極的に海外事業を展開するべきだと力説した。

続いて行われた近畿建設リサイクル表彰の授与式では、会長賞2件、奨励賞5件の受賞者に対し、上総局長から表彰状が手渡された。会長賞を授賞した大阪ベントナイト事業協同組合の水野克己大幸工業総合企画部長は、「再生リサイクル石『ポリナイト』の生産」について紹介、日本国土開発大阪支店京都松尾作業所の「汚染土壌のリサイクル」は、同支店土木部



パネルディスカッション

の安藤成利所長が取り組み内容をそれぞれ発表した。

「建設リサイクルの推進に向けて」をテーマとしたパネルディスカッションは、同局の塚田幸広企画部長がコーディネーターを務め、山田優大阪市大名督教授、浜野廣美大阪ベントナイト事業協同組合代表理事、小川次郎日本土木工業協会関西支部環境委員長、林里香近畿地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長の4人がパネリストとして議論した。

この中で塚田部長は、「見える化が今後のリサイクルの方向性だ」と思う。一つは、数値などのデータを情報発信していくこと。もうひとつは、廃棄物処理場などの現

場をもっとオープンな場所とし『見える』ようにすることだ』との考えを示した。

山田教授は「取り組みを今後さらに向上させるため、リサイクルを『量』から『質』に転換させることが大切。これまでは、再資源化率などを目標としてきたが、これからは、省資源や資源循環といったリサイクルの本来の目的をどう進めるかが課題となる」と指摘し、「リサイクルの内容や質の向上を示す数値を指標に加える必要がある」と力説した。

浜野代表理事は「設計・施工段階における3Rに視点を置いた設計や廃棄物の排出時にはより効果的な分別回収などを進めていかなければならない」とし、「再生材への補助など、行政の支援にも期待している」と述べた。

小川委員長は、「廃棄物の発生量はコンクリートガラと建設汚泥がほとんどを占め、総発生量に占める最終処分量は建設汚泥と混合廃棄物が多い」とリサイクルの現状について説明し、「構造物の延命化や汚泥の発生抑制の工法開発を進め、再生材の利用用途も拡大していくことが、今後の方向性だろう」と見通した。

林課長は、「関西では、フェニックス(大阪湾広域臨海環境整備センター)で産業廃棄物を受け入れていたが、いずれは搬入できなくなる。このことを認識しながら、3Rを推進し廃棄物の発生抑制を強化することが大切だ」と述べた。

循環型社会構築へシンポ

建設副産物対策 近畿地方連絡協



建設副産物対策近畿地方連絡協議会(会長・上総周平近畿地方整備局長)は21日、大阪市西区の建設交流館で「建設リサイクルシンポジウム」を開いた。写真、嘉門雅史香川高等専門学校校長による基調講演「建設リサイクルと循環型社会」のほか、本年度からスタートした「近畿建設リサイクル表彰」と「建設リサイクル標識デザイン」の表彰授与式、パネルディスカッションなどが行われた。

開会に先立ち、上総局長が「循環型社会の構築に向けて3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを充実させることが重要だ」とあいさつ。基調講演では、嘉門氏が循環型社会の考え方や推進に向けた法体系等を紹介したほか、再資源化率の状況等

開会に先立ち、上総局長が「循環型社会の構築に向けて3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを充実させることが重要だ」とあいさつ。基調講演では、嘉門氏が循環型社会の考え方や推進に向けた法体系等を紹介したほか、再資源化率の状況等

3Rの積極的取り組みを

リサイクルも「量」から「質」へ

リサイクル材料の環境安全性の確保、特定建設資材以外の建設廃棄物のリサイクル促進を挙げるとともに、「何よりも建設リサイクル推進による循環型社会構築の継続的努力が必要だ」と訴えた。

建設リサイクルの優れた取り組みを評価する「近畿建設リサイクル表彰」の授与式が行われた。

上総局長(左)と嘉門氏(右)が授与式を行っている様子。

上総局長は「建設リサイクルの取り組みを評価する」と述べ、嘉門氏は「建設リサイクルの取り組みを評価する」と述べ、

塚田部長は「近畿地方における建設リサイクル推進計画2009」の着実な推進とともに、「今後、見える化が重要なものに加え、廃棄物処理場等の見える化に向けた取り組みも大切だ」と話し、リサイクルの必要性を強調した。

山田氏は「リサイクルの『量』から『質』への転換が必要になる」とし、「再資源化率等だけではなく、リサイクルの内容、質の向上を示す数値を指標に加えるべきだ」と指摘。総合評価では「省資源、資源循環につながる質の高いリサイクルに高い評価点を与えるべきだ」と要望した。

近畿建設リサイクル表彰。建設リサイクル向上の課題として▽設計・施工段階における3Rに視点を置いた設計▽廃棄物排出時における効率的な分別回収の推進を挙げ、建設廃棄物全体で90%以上のリサイクル達成に取り組みとした。一方、「民間団体等のリサイクル活動を後押しするため、行政による再生材の積極導入等をお願いしたい」と行政の支援も求めた。

林氏は、最終処分場の確保が困難となりつつある状況を踏まえ、「3Rの中でも特に発生抑制を進めていく必要がある」と強調した。近畿建設リサイクル表彰等の受賞者は次の通り。▽受賞者2テーマ。【近畿建設リサイクル表彰】(会長賞)▽大阪ベントナイト事

林氏は、最終処分場の確保が困難となりつつある状況を踏まえ、「3Rの中でも特に発生抑制を進めていく必要がある」と強調した。近畿建設リサイクル表彰等の受賞者は次の通り。▽受賞者2テーマ。【近畿建設リサイクル表彰】(会長賞)▽大阪ベントナイト事

林氏は、最終処分場の確保が困難となりつつある状況を踏まえ、「3Rの中でも特に発生抑制を進めていく必要がある」と強調した。近畿建設リサイクル表彰等の受賞者は次の通り。▽受賞者2テーマ。【近畿建設リサイクル表彰】(会長賞)▽大阪ベントナイト事



建設リサイクル表彰。建設リサイクル向上の課題として▽設計・施工段階における3Rに視点を置いた設計▽廃棄物排出時における効率的な分別回収の推進を挙げ、建設廃棄物全体で90%以上のリサイクル達成に取り組みとした。一方、「民間団体等のリサイクル活動を後押しするため、行政による再生材の積極導入等をお願いしたい」と行政の支援も求めた。

建設リサイクル表彰。建設リサイクル向上の課題として▽設計・施工段階における3Rに視点を置いた設計▽廃棄物排出時における効率的な分別回収の推進を挙げ、建設廃棄物全体で90%以上のリサイクル達成に取り組みとした。一方、「民間団体等のリサイクル活動を後押しするため、行政による再生材の積極導入等をお願いしたい」と行政の支援も求めた。

朝日 産経 日経 毎日 読売 日刊建設工業 日刊建設産業 建設通信
大阪日々 神戸 京都 京都(滋賀版) 奈良 福井 和歌山()

循環型社会構築テーマに

建設リサイクルシンポジウム開く

副産物
対策協近畿

建設副産物対策近畿地方連絡協議会は21日、大阪府西区の建設交流館で近畿地方の循環型社会構築に向けた建設リサイクルシンポジウムを開いた。

シンポジウムでは、国立高等専門学校香川高等専門学校の嘉門雅史校長が「建設リサイクルと循

環型社会」をテーマに基調講演を行った。講演の



中で建設リサイクルの一層の推進について発生日リサイクルマネジメントシステム(RMS)の構築や公共工事における建設リサイクル材料使用の義務化をあげた。

続いて、今年度に創設した「近畿建設リサイクル表彰」の表彰式を行い、会長賞2件と奨励賞5件

の受賞者に上総周平近畿地方整備局長が表彰状を贈呈した。近畿建設リサイクル表彰会長賞の取り

組み発表のあと、日本能率協会総合研究所の高野昇取締役R&C事業担当

が建設リサイクルの先端事例と海外情報について紹介した。

また、塚田幸広近畿地方整備局企画部長がコーディネーターを務めパネ

リストに日本土木工業協会関西支部の小川次郎環

境委員長、大阪ベントナイト事業協同組合の浜野

廣美代表理事、近畿地方環境事務所の林里香廃棄

物・リサイクル対策課長、大阪大学の山田優名誉教授による「建設リサイクルの推進に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われた。近畿建設リサイクル表彰の受賞者と受賞テーマは次の通り。

【会長賞】

▽大阪ベントナイト事業協同組合⇨再生リサイクル石「ポリナイト」の生産▽日本国土開発大阪支店(京都松尾作業所)⇨汚染土壌のリサイクル。

【奨励賞】

▽I・T・O⇨建設副産物再資源率100%の達成▽英光産業⇨改良土の活用拡大と再生砂及び再生粒度調整砕石品質管理▽真柄建設大阪支店⇨廃棄物混じり土砂の約50%再利用▽鴻池組・オーパースイズ・ベクトル・インコーポレーテッド特定JV(第二京阪三ツ島東工事務務所)⇨高速道路建設工事現場から発生する各種廃棄物およびCO2排出削減▽飛鳥・松田特定JV(甲子園浜シールド作業所)⇨シールド掘削残土(建設汚泥)の盛土への再利用。

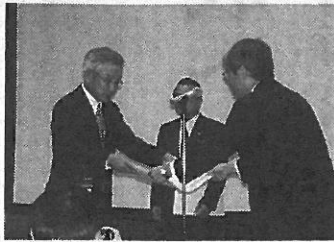
朝日 産経 日経 毎日 読売 日刊建設工業 日刊建設産業 建設通信
大阪日々 神戸 京都 京都(滋賀版) 奈良 福井 和歌山()

会長賞(施工部門)を受賞

近畿建設リサイクル表彰

日本国土開発

日本国土開発は、建設副産物対策近畿地方連絡協議会主催の「10年度近畿建設リサイクル表彰」において、同社大阪支店京都松尾作業所が実施した「汚染土壌のリサイクル」が会長賞(施工部門)を受賞、21日に大阪市西区の建設交流会館で表彰式が行われた。



同表彰は、近畿地方で建設リサイクルの推進を

自主的、かつ積極的に取り組んでいる個人、団体、事業者に対し、その活動を賞し奨励することを通じ、3Rの取り組みを充実させ、廃棄物などの循環資源が適正・有効に利用・処分される「循環型社会」の構築に向けた行動の輪を広げることが目的に行われている。

今回、同社が受賞した取り組みは、フッ素に汚染された土壌について、環境負荷の少ない、現地に設置したプラントを用いた分級洗浄工法による汚染土壌のリサイクル。

同工法は、より環境負荷の低下に配慮しており、昨年4月に施行された改正土壌汚染対策法にも対応しながら、分級洗浄を行った。対象数量は、全土地面積8000平方メートル、対策土量1万4430立方メートル(フッ素の土壌溶出量基準0.8mg/lを超える数量)であったが、場内洗浄処理1万2770立方メートル、場外搬出処理1660立方メートルで汚染土壌の約90%を現地でリサイクルした。こうした一連の取り組みが高く評価され、受賞につながった。